

180

Valsalva maneuver (VM)に対する血圧反応とMIBG心筋シンチグラフィによる交感神経機能
八木安生、布施野日出生、大友敏行、岡田雅邦、木下康恵、足立芳彦、中村充男（社会保険神戸中央病院）
自律神経障害時、VM反応にて著明な血圧の低下や血圧回復の遅れ、さらにover shoot現象の消失などが認められる。これら、VM反応とMIBGの関係について検討した。VM時、観血的に動脈圧モニターを行いVM解除後の収縮期血圧の最低値から回復時の収縮期血圧の最高値までの血圧値の差 (P) またこの時間 (T) より傾き (P/T) を求め、これを自律神経障害の指標とした。MIBGは静注30分後と3時間後像より心臓縦隔比(H/M)と洗い出し率 (WR)を求め、またSPECT像よりBull's eye表示像も作成した。VMの傾きと静注30分後と3時間後像のH/Mの間には有意の相関関係を認めたが、VMの傾きとWRの間には相関関係は認められなかった。